



- Q. 医療費の無償化や保育料の無償化を実施しても成果が表れない状況である。お金に関わる部分で支援対策を現状の何倍にも増やしていただく方法はいかがか。
- A. (町長) 町の敬老会で子供にばかり支援をして自分たち老人には何も支援がないとの話をいただいた。公平・平等を皆さんに実感いただき、政策のご理解を賜ることが大切と考える。ご理解のもとに限られた税金を再分配し子供を産み育てられる環境を充実させていきたい。
- Q. ラジオやテレビで白鷹町のPR(ランドセル贈呈事業等)をしてはいかがか。
- A. (企画政策課長) インターネットやSNSでPRをしてきたが、子育て世帯向けフリーペーパーに子育て支援住宅やランドセル贈呈についても掲載しPRをしていきたい。
- Q. 自彊会の周りに個人の山がたくさんあり、境界明確化がなっていないと売買もできない状況である。来年度から西側(蚕桑・鮎貝側)の境界明確化に力をいれていただきたい。
- A. (町長) 財産区の山は境界が明確化されており売買が成立するケースが多い。町で行う境界明確化は全体的なバランスを考えながら実施していることをご理解いただきたい。
- (農林課長) 航空レーザー測量は現地測量に比べて明確化を早く実施できる。データを基に境界案をお示しし、地域の方々にも協力いただきながら境界明確化を進めていきたい。
- Q. 町内の縫製会社が閉鎖となったが、新たな企業を誘致できればと考える。現在、そういった動きがあれば教えていただきたい。
- A. (商工観光課長) 管理については、当該縫製会社の本社で行っており、売買や企業誘致があれば町にも相談いただくが、現在は動きがない。
- Q. コミセン職員の賃金について、モチベーション向上のために経験年数加算するなどの対応はいかがか。
- A. (町長) モチベーションは非常に大事な部分だと考える。コミセンのこれからの運営活用について、原点に立ち返って考えていきたい。

- Q. 水害など災害が頻発している。各世帯に防災無線を貸与するなどの取り組みを行ってはいかがか。また、町内長や組長の連絡体制や役割が整っておらず、水害時に動くことができなかった。
- A. (総務課長) 災害時は屋外スピーカーでの周知や各自主防災組織等を通じて連絡を行い、更にテレビのテロップや携帯電話やスマートフォンでの情報提供を行っている。屋外スピーカーは聞き取りづらい部分もあるため、単身高齢者世帯等には個別受信器を貸与しており、取り組みを拡大していきたいと考えている。災害初期の段階は近所の方々と声を掛け合うなどしていただければと思う。避難指示があった場合は、避難所や親戚の家に行くなど命を守る行動をとっていただきたい。
- Q. 今年度、長井線の鮎貝駅・蚕桑駅延伸 100 周年のイベントを実施する。来年も荒砥駅延伸 100 周年ということでフラワー長井線利用拡大の意味も込めて予算をつけて対応いただきたい。
- A. (企画政策課長) 今年度、鮎貝駅・蚕桑駅で実施するイベントの予算は確保しており、来年度についてはどのようなことを実施するかを検討し対応していきたい。